

VLOOKUP関数を使ってみよう！

エクセルの関数は470種類程ありますが、よく使う関数や、知っていて損のない関数はごく一部です。

その中でも、特に便利で利用しやすい「VLOOKUP関数」について説明します。

「エクセルでこういう表を作りたいんだけど…」というご相談をよくいただきますが、このVLOOKUP関数を使えば解決できるものも多々あります。

「使ったことあるよ」という方も、「関数はちょっと苦手で」という方も、どうぞご覧下さい。

VLOOKUPって、どんな関数？

VLOOKUPとは、指定した範囲の中から検索条件に一致したデータを検索し、取り出してくれる関数です。

例えば、商品コードを入力しただけで、その商品の商品名や単価を表示させることができます。（もちろん、元となる商品一覧表（商品マスタ）は必要です）

図-1

No	商品コード	商品名	単価	数量	金額
1	1008	ノートパソコン	125,000	5	625,000
2	1002	プリンタ	35,000	3	105,000
3	1005	表計算ソフト	60,000	5	300,000
4	1009	ワープロソフト	60,000	5	300,000
5					
6					
7					
		小計			1,330,000
		消費税(8%)			106,400
		合計			1,436,400

商品コード	分類	商品名	単位	単価	仕入先
1001	パソコン	デスクトップパソコン	台	115,000	NEC
1002	周辺機器	プリンタ	台	35,000	キャノン
1003	パソコン	デスクトップパソコン	台	120,000	NEC
1004	パソコン家具	パソコンデスク	組	45,000	KOKUYO
1005	ソフトウェア	表計算ソフト	個	60,000	マイクロソフト
1006	文房具	クリアファイル	組	500	KOKUYO
1007	周辺機器	スキャナ	台	40,000	エプソン
1008	パソコン	ノートパソコン	台	125,000	NEC
1009	ソフトウェア	ワープロソフト	個	60,000	マイクロソフト
1010	パソコン家具	椅子	個	25,000	KOKUYO

【①】に商品コードを入力すると、商品マスタ【②】から商品名や 単価を検索し、結果を【③】に表示します。

関数の書式は？

図-1において関数の式が入力されているのは、③のセル（商品名）です。
入力されている式は以下の通りです。

=VLOOKUP（検索値〔①〕， 範囲〔②〕， 列番号〔②〕， 検索方法の指定）

検索値〔①〕	③に関数を入力した後、商品コードを打ち込むセルです。 打ち込むと、③に 商品名、及び単価が表示されます。
範囲〔②〕	商品一覧表のセルです。 表内左端の列（「1」の列）に、検索に用いる商品コードが入力されている必要があります。
列番号	範囲〔②〕内の、何列目に取り出したいデータがあるかを指定します。 【図：1】の例の場合、商品名を取り出したい場合は「3」、単価を取り出したい場合「5」となります。 ※列数に制限はありません。
検索方法の指定	「FALSE」または「TRUE」で指定します。 「FALSE」と指定すると、検索値と完全に一致する値だけを範囲の中から検索します。 「TRUE」を指定すると、検索値と一致する値がない場合、一番近い値を検索します。 ※一般的に「FALSE」の代わりに「0」と、「TRUE」の代わりに「1」と入力することも可能です。

実際に入力してみよう

例を用いて、具体的な式の入力方法を見ていきましょう。

図-2では、関数式は セル 【D3】 に入力されています。

図-2

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N
1			請求内訳						商品マスタ					
2		No	商品コード	商品名	単価	数量	金額		商品コード	分類	商品名	単位	単価	仕入先
3		1	1008	ノートパソコン	125,000	5	625,000		1001	パソコン	デスクトップパソコン	台	115,000	NEC
4		2	1002	プリンタ	35,000	3	105,000		1002	周辺機器	プリンタ	台	35,000	キャノン
5		3	1005	表計算ソフト	60,000	5	300,000		1003	パソコン	デスクトップパソコン	台	120,000	NEC
6		4	1009	ワープロソフト	60,000	5	300,000		1004	パソコン家具	パソコンデスク	組	45,000	KOKUYO
7		5							1005	ソフトウェア	表計算ソフト	個	60,000	マイクロソフト
8		6							1006	文房具	クリアファイル	組	500	KOKUYO
9		7							1007	周辺機器	スキャナ	台	40,000	エプソン
10				小計			1,330,000		1008	パソコン	ノートパソコン	台	125,000	NEC
11				消費税(8%)			106,400		1009	ソフトウェア	ワープロソフト	個	60,000	マイクロソフト
12				合計			1,436,400		1010	パソコン家具	椅子	個	25,000	KOKUYO

=VLOOKUP (C3 \$I\$3:\$N\$12 3 0)

検索値

範囲

列番号

検索方法の指定

■範囲〔②〕のセルの“\$”マーク

「\$I\$3 : \$N\$12」の“\$”マークは、その範囲が「絶対セル番地」であることを示しています。

例えば、D3に入力されている式をD4へコピーした場合、範囲が絶対セル番地で指定されていないと、参照範囲もずれてコピーされてしまいます。（この場合、I3 ~ N12になります）

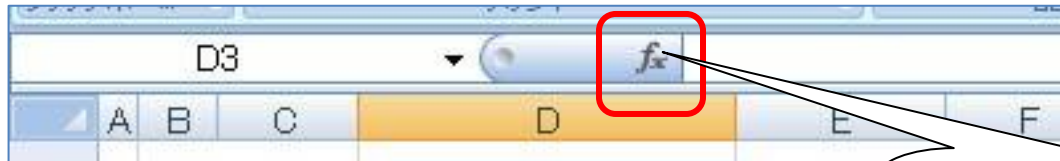
範囲〔②〕を絶対セル番地で指定しておけば、式をどこにコピーしても、

範囲は必ず I 3 ~ N 1 2 を参照するようになります。

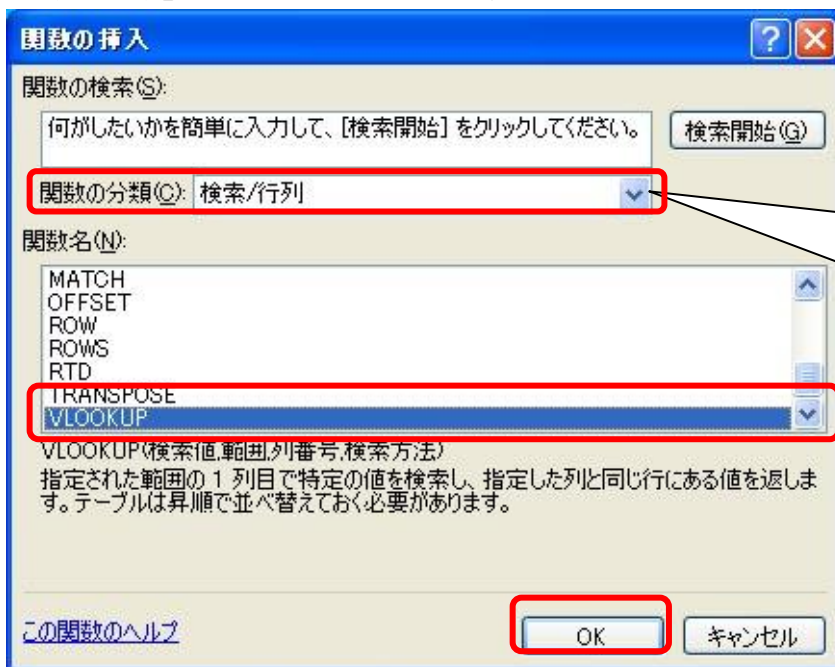
関数をセルに直接入力するのは大変なので「関数の引数」ダイアログボックスを表示させて関数を入力すると便利です。

関数の引数」ダイアログボックスを表示するには、関数の挿入ボタンをクリックします。

※セル【D3】を選択しておきましょう



関数の引数」ダイアログボックスが表示されます。

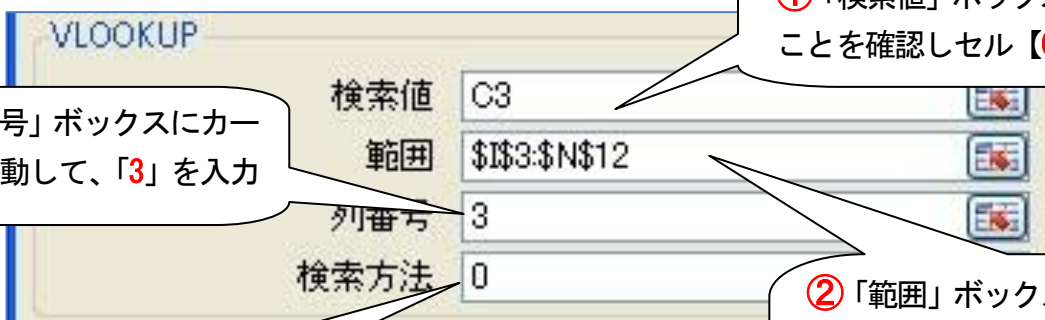


セル【D3】を選択して
fx (関数の挿入ボタン)
をクリックします

「関数の分類」が「最近使った
関数」になっているので
▼ をクリックして「検索/
行列」に変更します

VLOOKUP 関数の引数入力ダイアログボックスが表示されます

日本語入力モードは **A** (オフ) で!



①「検索値」ボックスにカーソルがある
ことを確認しセル【C3】をクリック

③「列番号」ボックスにカー
ソルを移動して、「3」を入力

②「範囲」ボックスにカーソルを移動
して、セル範囲【I3:N12】をドラッグ
し **F4** キーを1回押して
「\$I\$3:\$N\$12」とします。

④「検索方法」ボックスにカー
ソルを移動して、「0」を入力

⑤最後に「OK」ボタンをクリック